



京都障害者雇用企業サポートセンター NEWS LETTER

障害者雇用促進セミナー 開催報告【2月8日実施】

「障害者の生活面での課題への対応」 ～適切な生活支援で安定就業へ～

障害のある方が働くにあたっては、生活面でのさまざまな課題がきっかけとなり、業務に支障をきたしてしまう場合があります。今回のセミナーでは、障害者の生活面での課題について事例を挙げながら、企業はどのような対応をすればいいのか、支援のポイントを紹介。講義の後は、質問形式で参加者との意見交換会が行われました。



一般財団法人長岡記念財団 しょうがい者就業・生活支援センター
はあとふるアイリス 副所長

松田 依子 氏

障害者の生活面での課題への対応

安心して仕事を続けていくために
それぞれの障害特性にあった支援を

障害のある方に限らず、社会に出て働くうえで、仕事と生活は切り離すことのできないものです。この生活面は、企業からは少し見えにくい部分もあるかと思えます。障害者が安心して仕事を継続するために、その根本の生活面を下支えしていくのが「生活支援」です。

例えば、生活リズムの整え方、健康管理・病状管理、金銭管理、人間関係における適度な距離の保ち方、家族関係の調整、余暇の過ごし方、住まいの環境などは、困っていても会社には相談しにくいものです。精神障害のある方のなかには、相手のことばかりに気を使って疲れてしまう、我慢が重なり仕事に行けなくなるという方もいます。ほかにも、仕事と余暇のバランスをとるのが苦手な方、一人暮らしがしたいけれど不動産屋に一人で行くことに抵

抗がある方など、それぞれの障害特性によって、さまざまな課題を抱えています。

そのような多岐にわたる相談支援を行うのが「障害者就業・生活支援センター」です。現在、京都に8か所あり、各地域でライフスタイルからお金の使い方、生活設計、人生設計、地域社会での生活に至るまで、生きていく中で、あるいは就業生活を送っていくための根っこの部分を支えています。センターだけでカバーできない問題は、専門機関に連絡をとり、連携をとりながら解決をめざすことも。生活面での課題は、本人が意識していないところで後々大事になってしまう場合もあります。このような状況をすべて企業が把握するのは困難なため、いち早く察知するという役割を私たち支援者は担っています。

[ウラ面へ](#)

企業視点でバックアップする専門窓口

京都障害者雇用企業サポートセンター

センターの
ご利用はすべて
無料

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ西館3階
TEL:075-682-8928 FAX:075-682-8043
【ご利用時間】月曜～土曜日/9時～17時(日・祝、年末年始休み)

いつでも相談できる支援者を持つことが課題の解決には有効

実際の二つの事例を挙げながら、課題とその対応についてお話します。

ひとつめの事例は、障害があることを開示して入社した統合失調症のAさん。不安が高じると買い物依存になる、自己啓発セミナー等にお金をつぎ込む、という課題がありました。そして、セミナー参加後は自分を過大評価し、自己判断で薬の服用をやめてしまうのです。その結果、「感情的に不安定で心配」と会社からの連絡が入り、入院治療を受けることに。治療により本人は病状管理を見つめ直すようになりました。会社からも「退院後も会社で働けるよう、病気の特性に対して周囲はどのように配慮すべきかを勉強したい」との申し出があるなど、環境を整えることに尽力。現在は無事に職場復帰され、本人との相談支援を行いつつ、上司の方とも定期的な連絡を取りながら、職場定着を図っています。

次のBさんは、軽度の知的障害のある方。身寄りがなく、グループホームから会社へ通っていました。真面目で仕事



もよくできると評価されていましたが、携帯ゲームやパチンコへの依存があり、給料日にはお金を半分以上使ってしまうことも。そのうち、消費者金融を利用するようになり、取り立てが会社にまで来るようになってしまったのです。このケースでは、ギャンブル依存専門の治療や法テラスを利用した債務整理を行いました。本人は当事者同士の集まりに参加する中、パチンコの高揚感で孤独感を埋めていたと自覚できるようになりました。現在は上司が見守る中、安心して仕事に打ち込める状況となり、就業継続できるように支援を続けています。

働く障害のある方から相談を受けている中で感じることは、「困っていることを言い出せないことも特性のひとつ」であるということです。そのため、本人がいつでも気軽に相談できる支援者を持つことが大切です。いざという時、早期の発見・解決がしやすい支援体制を整えておくことが安定した就業へとつながります。もちろん、本人からだけでなく、企業側からの相談も受けていますので少しでも心配なことがあれば、当センターをご活用いただきたいと思います。



《意見交換会》 参加者の皆さんと質問形式でディスカッション

「安定就業を応援したい」企業から伝わる熱意

— 実際に企業の担当者が抱えている課題とは？ —

意見交換会では、参加された企業の担当者の方々が、実際に障害者を雇用していく中で、どのような疑問や不安を抱えているのかを発表し合い、それぞれのケースに応じ、対応策を松田講師がアドバイスしました。

「社会人としての規律を守ってくれない障害者に対して、どこまで指導したらいいのか」という質問や、「恋愛のようなデリケートな問題にどう対応すればいいのか」、「プライベートな部分にどこまで関わるのがいいのか」などに対し、松田講師は「会社がすべてに対応するのは大きな負担。支援機関に相談し、役割分担するのがいい」と提案しました。

職場では様々な事象が起こりうるものの、企業としてどこまで踏み込むべきなのかの判断は難しいものです。何かあれば、関係機関を利用する、「障害者就業・生活支援センター」に相談する、というかたちで支援するのが望ましいとお話されました。



編集後記

第7号のニュースレターでは、2月8日に開催したセミナーの概要を紹介しました。参加者の中には、雇用中の障害のある方と真正面から向き合い、本気でぶつかり合う方、温かい母親のような目線で生活を心配している方もいらっしゃり、障害者の職場定着をめざし、企業の方々が日々努力されている姿が目に見え、心がなぐさめられました。センターでは今後も課題解決をサポートできるようなセミナーを開催してまいりますので、お役立てください。